

## 2018 年度第 2 回 日本学連幹事会 議事録

開催日時：2018 年(平成 30 年)9 月 29 日(土曜日) 14:00~19:30

開催会場：宮城県多賀城市大代地区公民館 第 1 会議室

議事録作成者：広報部長 山川 登（東京大学）、広報部員 上村 太城（慶應義塾大学）

### 議題

1. インカレと渉外問題について.....	3
2. インカレリレーへの B クラス設置について.....	7
3. 公認大会について.....	9
4. 加盟員資格について.....	11
5. 学連発足 35 周年記念について.....	16
6. アンチ・ドーピング啓発活動について.....	18
7. インストラクタ講習会について.....	20
8. セレクションでの日本代表選手の扱いについて(関東学連より提案).....	21
9. オリエンテーリング部を名乗る団体について.....	23
10. 後援大会申請.....	23
11. 技術委員会報告.....	24
12. 各部局活動報告.....	25
13. 地区学連活動報告.....	26
14. 次回幹事会について.....	26

出席者（敬称略）

氏名	役職	学校名
山川 克則	副会長	東京大学卒
遠藤 匠真	幹事長	大阪大学
西嶋 就平	副幹事長	名古屋大学
上野 康平	公認大会 WG 担当	東京工業大学
丸山 真輝	技術委員関連担当	東北大学
竹内 公一	会計	名古屋大学
森川 俊成	事業部長	京都大学
山川 登	広報部長	東京大学
上村 太城	広報部局員	慶應義塾大学
久野 公愛	事務局長	日本女子大学
種澤 遼太郎	渉外部長	東北大学
臼井 沙耶香	普及部長	東北大学
塩平 真士	会計監査	北海道大学
佐藤 遼平	会計監査	東京大学
林 俊充	北東学連幹事長	岩手県立大学
山下 政泰	北信越学連幹事長	新潟大学
渡辺 鷹志	関東学連幹事長	京都大学
南雲 裕貴	東海学連幹事長	名古屋大学
藤本 拓也	関西学連幹事長	京都大学

## 1. インカレと渉外問題について

### 要旨

今後のインカレに関しての状況確認とともに、オリエンテーリングでのトレイン利用に関わる渉外の問題について認識・共有を行った。また、日本学連として改めて渉外問題事例を収集し、マナー啓発に向けての動きを確認した。

遠藤	インカレ関連の動きに関して、現在不在の丸山（技術委員関連担当）に代わり、報告を行う。先日、インカレロング・スプリントが無事終了した。スプリントの一般クラス開催や秋インカレの三日間開催など新しい試みを行ったので、それについてアンケートを実施予定である。また、インカレ WG の ML を随時動かす予定である。
遠藤	現状の日本学連の仕組みとして、渉外問題の報告義務はどうなっているのか確認したい。学連加盟校による練習会・大会の報告書は提出されているのか、事務局長に確認したい。
久野	大会の報告書に関しては提出されているが、練習会報告はあまり多くない。関東学連に提出されているものは日本学連に転送するようになっているが、全ての練習会について報告が上がっているかまでは把握していない。（前関東学連事務局長として）
遠藤	日本学連 HP 内トレイン利用ページにある「日本学連届出書、報告書の手引き」（【資料 1-1】）には、「届出書は開催日の 1 週間前までに、使用トレインのある地区学連の事務局及び所 属する地区学連の事務局に提出すること。」とある。これはしっかり提出されているのか。
久野	事前の届出はしっかり行われているが、報告書については問題発生時のみ提出ということもあり、あまり提出されていない。
遠藤	「届出書を提出せず、渉外等の問題を起こした場合、該当地区学連及び日本学連関知しない。」とのルールがある。
山川 (克)	前幹事長瀬川（元関東学連幹事長）に確認したところ、関東学連では渉外発生時の報告書の提出は義務化されているが、形骸化している部分もあるとのことだった。
遠藤	関西学連としても地区学連レベルで概ね提出されているが、その後は知らない。
久野	地区学連に提出されたものは日本学連に転送されてきている。各地区学連からの情報を日本学連が吸い上げる機構としては機能している。ただ、大きな問題が報告されたことはなく、開催地や開催規模の報告程度が専らである。

<p>山川 (克)</p>	<p>(テレイン使用に関する人・組織の相関図)</p> <p>JOA の指導者教本にも涉外問題の項目は心許ないので、日本学連主催のインストラクタ講習会資料（後述）にも涉外問題について項目を作成した。</p> <p>図中のこれらのそれぞれがお互いに複雑に関係しあっている。</p> <p>テレイン利用に関するナイーブなキーワードの一つとして「テレイン利用の許可」というものがある。テレイン利用者が「許可をもらった」と思い込んでいる相手は「地図版權者」である学連や都道府県協会であることが多い。実際に許可を出せるのは土地所有者や公園管理者などであるが、その全てに許可をもらうことは難しく、無許可での実施も多い。そのあたりの事情を理由に涉外問題が起こることもある。公園や財産区であれば許可は出やすく、自分はその辺りに話を通すことで、矢板・日光地区の涉外状況は安定しており、インカレの継続開催もできている。涉外問題が起こった際、自分にすぐ連絡が来るようになっており、自分から直接土地所有者に話をつけられるように整備している。</p>
<p>山川 (克)</p>	<p>近年の涉外問題としては、作手地区の例もある。今年から管理者制度を始めた。1 年前の名相大会にて給水の水をテレイン内に置き忘れたことに関する涉外問題がきっかけであると聞いている。</p>
<p>竹内</p>	<p>作手地区はマウンテンバイクに関する涉外問題もあり、そちらの大きな影響もあるとの話も聞いた。</p>
<p>山川 (克)</p>	<p>作手地区に関しては、愛知県 OL 協会が土地利用者に謝りに行き、厳しい規制はかかっているものの、テレインの継続的な利用は可能となっている。</p> <p>普通はこのように都道府県協会や地図版權者などが土地管理者との間の話を取り持ち、制度を整えながら継続的なテレイン利用のため管理を行うものである。</p> <p>これらとは別に、5 月に 2 週間連続でパーク O での涉外問題があった。ウェルカムリレーでの「再度公園」及び埼玉県民大会の「桶川市城山公園」が使用不可となった。公園利用者に配慮せず走っている、との意見が原因であった。一般的な話として、公園での無配慮に高速なオリエンテーリングはするべきでない。</p>

山川 (克)	駒ヶ根でのインカレでもゴーカート場への侵入があった。これは地図上で立入禁止表記の領域であった。 渉外問題報告の義務の厳格化と各クラブでの新入生へのマナー・リテラシー教育の徹底化について学連で取り組む必要がある。
佐藤	プログラムや公式掲示板での情報共有も大事ではないか。クラブでの事前教育としても限界があるので、各大会でのわかりやすい情報提供がほしい。
山川 (克)	近年の渉外問題としては 2 年前の関東学連ロングセレでの会場飲食問題もある。前回の日光インカレにて開会式を午前に行ったのも日光地区での会場泥持ち込み問題に起因する。
遠藤	オリエンテーリングの特殊性に起因する問題と単にモラルの問題の 2 種がある。
山川 (克)	幹事会の場で取り扱っても新入生等の末端まで届ききらない。
遠藤	学連として隅々まで意識を行き渡らせていく方策を考える必要がある。渉外的観点からインカレの継続開催が決して安泰でないということも知ってほしい。
	(途中入室者の関係により、以下、他議題後)
山川 (克)	相手によっては渉外問題が避けられないこともあるので、渉外トラブルの事例を共有するために報告を徹底するよう啓発することが大事だ。
遠藤	現状としては日本学連で渉外問題の情報を集約はしているが、共有できていないので学連から発信する機会も必要。インストラクタ講習会もそういった機会の一つだが人数に限られる。
渡辺	Twitter など日本学連の公式見解として即座に発信していくことはできないか。個人によって断片的に情報が流れていくのは良くないので即効性が大事だ。ウェルカムリレーの際は NishiPRO が素早く資料を共有し、見た側としては理解しやすく危機感も共有できた。
上村	日本学連と NishiPRO での拡散力の差もあるため難しい側面もある。
渡辺	日本学連単体ではなく、学生全体として拡散していくことはできる。
山川 (克)	渉外問題の内容については責任問題が生じる場合もあるので、役員 ML などで精査した上で共有する必要もある。
遠藤	日本学連 ML は公式の共有手段だが、各校で伝達できているかは怪しい。共有はしていないといけませんが、良いプラットフォームがない。  渉外問題の報告義務違反に関する厳罰化はどうか。
山川 (克)	大問題を日本学連に報告せず放置した場合は、インカレ出場を禁止するぐらいのことはしても良いのではないか。厳しい認識を植え付ける必要がある。
佐藤	インカレ出場に関して措置を取ることを検討する、といった文言はどうか。

遠藤	<p>学生も代替わりしていくので、定期的に発信していく必要もある。</p> <p>未然に防いでいく試みとしてのマナー啓発は普及部にお願いしたい。</p>
臼井	<p>マナー啓発に関してこれからの方針を定めた。(【資料 1-2】 渉外問題の情報集約とルール作り)を参照してほしい。</p> <p>渉外問題が起こる要因はいくつか想定される。土地使用者への競技の説明不足(登山等と勘違いされ、道以外の部分も走り回る認識が共有できていない)やオリエンティアのマナー違反(私有地への侵入、通行者に怪我をさせる)等が挙げられる。しかし、渉外問題事例が集めきれておらず推測の域を出ない。情報を集め、渉外問題事例集を作成し、渉外問題の理由をまとめた上で、当たり前のルール(私有地に立ち入らない、一般の方に迷惑をかけない、会場にゴミを残さない等)を明文化し、総会にて各大学に共有していくのが良いだろう。作成に当たる具体的なスケジュールは資料 2 ページの通りに進めていく予定である。</p>
遠藤	<p>現状ではマナー教育が各クラブ任せで差が出てきてしまうので、標準ルールができるのは良い。渉外問題の原因を考えると、競技の特殊性以外にも単にモラルの問題もあるので、どこまでを含めてルール作りをするかも難しい。</p>
臼井	<p>渉外問題の事例を集めるために、各校記入用の渉外問題報告書(【資料 1-3】)も作成した。内容に不足がないか及び集める年数が 3 年で良いかを確認したい。現役がわかる年数として 3 年を想定した。</p>
山川(克)	<p>全国の渉外問題に関して、日本学連が動く必要のある重大で緊急性のある事例に関しては即座に山川まで連絡をするように、連絡先の記載をお願いしたい。</p>
渡辺	<p>考える対策欄を設け、その対策で良いのかを日本学連側からフィードバックを行うというのはいかがでしょうか。</p>
遠藤	<p>普及部も仕事が多いので、別で専属に幹事を設けるのが良いかもしれない。話をまとめる。</p> <p>渉外問題の報告義務を徹底するのが第一。渉外事例の発信は必要だが、その方法は考えていく必要がある。報告を促す機会はどのようなものが良いか。日本学連 ML 以外にも、Twitter を活用していくのが良いだろう。</p> <p>スプリントのマナーについては具体的な情報も求められているので、インカレ WG グループを動かし、逐次、報告をお願いしたい。</p>

議題中に上野が入室した。

## 2. インカレリレーへの B クラス設置について

### 要旨

インカレリレー一般クラスに、難易度 F クラス相当の「BR クラス」新設の提案を決定した。

佐藤	<p>(【資料 2】 インカレリレー B クラス設置の意見書)を参照してほしい。</p> <p>昨年度インカレリレーの際に、競技経験の少ない OLK の女子 1 年生が WUR クラスに出走し、難易度の高さから 4 時間程度にわたる長時間のレースを行った。これでは安全性の確保もできず、オリエンテーリングやインカレを楽しむことをできない。当初は F クラスの設置を考えたが、OLK 内で話し合った結果、表彰がない、あるいは 1 位のみでの表彰に限定した B クラスの設置が良い、とのことになったので、この場で提案することとした。</p>
遠藤	<p>この意見について幹事会役員の賛成・反対の情勢を見ておきたい。</p>
	<p>インカレリレーでの B クラス設置について 賛成多数</p>
佐藤	<p>インカレリレーの時期は迫っているので早めに決めたい。</p> <p>B クラスを設置するに当たり、男女別(MBR/WBR)か男女混合(XBR)にするかが争点。男女別になると人数的な問題でチームが組めず、結果 MUR/WUR に出場する、となくなりかねず本末転倒になりかねない。であれば、男女混合が望ましい。ただ山川杯にも関わってくるので、表彰対象とするかは議論の余地がある。</p>
遠藤	<p>各自のレベルに合った競技を楽しんでもらう、という趣旨であれば表彰はなしでも良いのではないかと。</p> <p>インカレ実施規則にはリレー競技一般クラスに関する規約が存在しないので、一加盟員からの意見として、インカレ実行委員会に提案を行う、という形で進めればよいだろうか。その後は実行委員会の運営判断に任せたい。</p> <p>インカレリレー特例措置に関しての流れを見ると、アンケートを例年実施し実行委員会に結果を提示していたが、ガイドラインを制定してからは実行委員会がそれを参照する、ということとなった。</p> <p>B クラスの設置を行った際に想定されるデメリットは具体的に何があるだろう。</p>
佐藤	<p>表彰対象になるかどうか、と運営負担が増えること、の 2 点が想定される。</p>
遠藤	<p>運営負担に関しては提案後の実行委員会判断であるし、未帰還者を減らす、という意味ではむしろ負担軽減になる。安全性が最優先でもあると思う。</p> <p>実行委員会への提案とするにあたり、さらに具体化する必要がある。何か意見はないだろうか。</p> <p>意見書内の OLK 内の意見を元に方向性を考える。</p> <p>難易度はインカレ個人戦 F クラス相当とする。</p> <p>人数は 3 人制のままとする。クラス混成は複雑化するのでなしとし、B クラスで統一したい。</p>



遠藤	山川杯に関して表彰はどうするか。
山川 (克)	山川杯の算入対象については学生が自由に決めれば良い。今年のスプリント一般クラス算入については実行委員会からの提案に OK を出した。
佐藤	ひとまず今年一度やってみてから考えるので良いのではないかな。
遠藤	どれくらいのチーム数が出場するのかわからないので、優勝チームだけ表彰などで始めてみるのが良いのだろうか。
遠藤	男女共通クラスにするかはどうするか。 MBR とすると出場者は見込めないように思う。これも情勢を見たい。
	リレーBクラス新設について：「男女別」か「男女混成」どちらが良いか 「男女混成」が賛成多数
遠藤	多くのチームの出場は見込めない、という前提に立つと男女混成が望ましい。 Bクラスエントリー後のAクラスの変更は無しにしたい。理由としては、運営負担が増加することと、3人まとめてAクラスに変更するという状況は考えにくい、という2点。
南雲	男女混合、としているが、男子のみでの構成でも問題ないかな。
遠藤	必ずしも男女を混ぜず、片方の性別でも良しとしたい。「XBR」との名称では混乱を招くので、性別を考えず「BR」とすれば良いのではないかな。 では、この形でひとまずまとめる。佐藤の意見書を読み、背景となる主張を踏まえ、議論した内容のBクラス設置する意見書を実行委員会に提出するという ことに関して幹事会で決を採る。
	13(全会一致)で可決
遠藤	インカレ ML に春インカレ運営者を入れ、意見書を ML に流して提案を行うと同時に、制度として適当かどうか議論を進めることとする。



### 3. 公認大会について

#### 要旨

公認大会に関わる WG での議論について共有を行った。公認大会申請の期限に関しては、学生の立場からは 6 ヶ月前で問題ないとの認識であった。

上野	今現在揉めているのは、公認大会の申請期限について。公認・準公認問わず 6 ヶ月前、となっているのが現状だが、それはどうなのだろうか。
遠藤	公認大会開催側からは 6 ヶ月前は早すぎるとの意見があるが、競技委員会としては 6 ヶ月前を維持したい、との主張。
遠藤	<p>競技委員からの主張をまとめる。</p> <p>1 点目。</p> <p>既に(ローカル)大会が予定されている日程に後から公認大会を開催すると、前者が日程を動かさざるを得ない。このような事態を防ぐために半年前という十分な期間が適正ではないか。また、オリエンテーリング界において公認大会の日程は強い意味があるため、半年程度前には決定しているべきである。</p> <p>2 点目。</p> <p>公益社団法人という公的組織である JOA が認定するイベントであるから、社会通念上、半年程度という十分事前に公表すべき。運営準備期間や選手の大会調整の期間として半年程度は必要である。</p> <p>締切期限を過ぎた公認申請を認めた大会が中止になったことがあった。これについては準備期間と関係のないところに原因があるとの反論があり、問題でない。</p> <p>これに関連して西村氏より以下のような指摘があった。</p> <p>渉外が完了していないと公認を申請できないのであれば、「対外的に箔をつけるために」公認を申請するという今までの議論の前提が崩れる。主催者をサポートするのが JOA の存在意義であり、本末転倒ではないか。</p> <p>前提として、大会開催側の公認のメリットは多くの参加者を見込めることに加え、公益社団法人として渉外の際に対外的に箔がつく、ということがある。渉外に活用できる手段として JOA による公認があるにも関わらず、渉外が済んでいないと公認を取得できない、とというのは矛盾していないか、との指摘である。</p>
遠藤	<p>我々学連の立場に求められる意見としては、学生が大会を開く際に 6 ヶ月前という申請期限はどう感じるか、というごくシンプルなものだろう。</p> <p>今年公認大会を開いた、開く予定のある大学クラブに意見を聞いてみたい。</p>
上村	KOLC としては特に負担に感じなかった。作成に関して滞りはあったが、期限に厳しさは感じなかった。

久野	早大 OC としては期限内に提出はしたが楽には感じなかった。公認大会申請には仮申請制度もあるが、カテゴリ A に関してはそれが適用されず、申請後の内容変更は受け付けられないため、期限に合わせて提出する必要がある。
山川 (克)	公認申請を取り消された関東スプリントセレについては仮申請を出していたものの、仮申請と本申請との間の変更内容が大きかったために申請を取り消された。
森河	京大京女大会は長らく伝統的に公認大会としているので、6ヶ月前に公認申請を出すことについては既定の手続きの一部であり負担には感じていなかった。
遠藤	話をまとめると、学生としては6ヶ月前という期限でも問題ないということか。
山川 (克)	栃木県大会のように、公認大会の開催が少なかったことなど、理由をつければ6ヶ月前という期限を過ぎても公認大会を認めることがある。
佐藤	公認大会の開催数が少ないなどの状況判断も、6ヶ月前という時期なら判断がしやすいなど、JOA 側としてメリットが有る。
上村	フォレストとスプリントでは運営の性質も違うので、また別の議論が必要となるのではないか。
遠藤	阪大スプリントでは公認大会を検討したが、パーク O ツアーとのジョイント被りがあったことや集客力に不安がなかったことから断念した。

## 4. 加盟員資格について

## 要旨

現状の日本学連加盟員資格の問題点を共有し、規約改正の原案を作成した。学籍と加盟登録が矛盾しないよう、年度途中での変更対応も含め、日本学連規約上で定める方向性となった。また、大学院生の加盟登録も認め、初登録から 4 年間で登録可能期間とするよう、インカレ実施規則及び日本学連規約を変更することを検討した。今後は、加盟員に対するアンケート及び総会決議で話を進める。

遠藤	<p><b>【資料 4-1】 加盟員登録の資格について(遠藤)</b></p> <p>まず 6 月に話した内容として、加盟校基準を満たさない学校が加盟登録されているなど、確認が甘い状況がある。具体的には専門学校の登録が行われていた。また、日本学連加盟員の資格に大学院生を含めるかどうかについて、過去の総会・幹事会にて盛んに議論が行われている。この議論の際の結論としては否決され、大学生が初の登録時より 4 年間のみ学連登録できる、という現在の形となった。</p> <p><b>【資料 4-2】 加盟員登録の資格について(渡辺)</b></p> <p>渡辺の提案について資料を参照して話を進めていく。</p> <p>1 つ目として、渡辺の現状の境遇である学籍を置く学校と加盟登録する大学が異なるというねじれ現象をどうするか。渡辺自身から説明をお願いする。</p>
渡辺	<p>自身の個別の事情について具体例の 1 つとして説明する。</p> <p>2016 年度に慶應義塾大学に入学し、KOLC に所属。2 年間、KOLC にて活発にオリエンテーリング競技者として活動を行った。並行して京都大学の再受験にて合格。2018 年より慶應義塾大学を中退し、京都大学に入学した。その際に学連登録の学校をどうするかを考え、各種規約を参照した。規約上での制約はなかったため、京都大学に学籍を置いているが、学連登録は継続して慶應義塾大学 3 年として加盟登録の更新を行った。理由としては関東学連幹事長を引き受けたことも挙げられる。</p>
遠藤	<p>そもそも学連加盟登録をする際に学校を選ぶことは可能なのか。</p>
渡辺	<p><b>【資料 4-3】 加盟に関する規則(関東学連)</b></p> <p><b>【資料 4-4】 加盟に関する規則(日本学連)</b></p> <p>関東学連規約においては、初学連登録時と年度の途中での学籍変更について明記されている。裏を返せば、年度区切りの時期については一切規約での言及がない。日本学連規約にはその辺りの詳細な記載がない。</p> <p>「加盟員となる」との記述を「新たに加盟員になる」と解釈し、更新の際には参照されないものと考えた。そのため、関東学連としては日本学連幹事会で判断を仰ぎ、更新に関する条項を追加しようとの方針となった。</p>

遠藤	日本学連規約にて細かく記載されていない事項について関東学連規約には記述がある。他の地区学連にはこのような規約はないと思われ、このような規約を作るのであれば全国で統一して作るべきであり、地区毎に異なるのは望ましくない。
渡辺	日本学連規約にて詳細に定めれば良いのではないか。
遠藤	関東学連幹事長は関東学連加盟員である必要はあるか。
渡辺	そのような文言は規約にない。ただ、実際の経験からすると実務上あったほうが良いように思う。
遠藤	今年の渡辺の例に関しては対応が遅れたこともあり認めることとするが、今後このような例があった場合に認めるかどうかは別に考える必要がある。この件は規約の問題点を突いた特殊事例であり、幹事会としてこれについてどのような解を示すかを話し合わなければならない。
渡辺	今年度中に更新に関する統一解釈を作り、規約化すれば今後は対応できる。
遠藤	学籍と加盟登録校が異なるという例は認めない方向性で良いだろうか。
渡辺	関東学連内では、違和感があるとの意見がある一方、容認する意見もあった。
遠藤	セレクションなどの実務上の問題が生じるので認めるべきでない。
佐藤	渡辺の例に則れば、年度末に中退した学生が次年度に学籍がなくとも学連登録ができることとなる。それはおかしい話だ。
渡辺	新規加盟登録の際に加盟員資格を有し、一度加盟員となった者が年度の変わり目で更新をする際の扱いをどうするか、が論点だ。
遠藤	「加盟員となる」との文言は「新たに」とは限定しないのではないか。「加盟員である資格」と読み替えても変わらないものだと考える。 日本学連が関東学連の上部組織であることから、以後の議論では日本学連の規則を参照する。(【資料 4-4】「加盟に関する規則」(日本学連))の第 2 条にて「加盟員となる資格をもつのは、原則として規約第 7 条に定められた 加盟校、準加盟校(以下、加盟校 という)となる資格を有する、大学、(中略)に正規生として学籍を有する者(以後、省略)」とある。以後の条文では中退に関して触れていないことから、「加盟員となる資格」というのは「加盟員で有り続けるための資格」であって、中退などでそれを失えば直ちに加盟員資格を失うものと解釈できる。
遠藤	「自らが正規生として学籍を置いていない大学で加盟登録はできない」ということを規則として定めたい。
渡辺	今ある規約の解釈を考えるというよりは、新たに規約を制定するという方向で考えるので良いか。その方向性で関東学連規約をベースにすれば、まず年度途中で学籍を失った場合の対応、次に年度替わりに学籍が変わった場合の対応、その 2 点を文章化すれば良いだろうか。
佐藤	高専生などを考えると編入学は年度初めとは限らないので、その方向性だと不都合が生じる。高専の所属で加盟していた者が、大学への編入にあたり年度途中で

	<p>加盟変更を行う、というようなケースである。加盟登録の締切時点での所属校で判断し、以降の中退については加盟員資格を失う、とすれば良い。その後の変更についてはまた別条文が必要か。</p> <p>学連加盟費の問題もある。学連加盟費には地区学連への還元もあるが、年度途中での加盟変更の際に地区を動いた場合はどうするのか。</p>
遠藤	<p>そもそも加盟変更という制度が現状存在せず、年度途中に加盟変更を行った者がいない。年度区切りの更新の際に変更を行い、加盟費も年度で区切ってそれぞれの地区学連に収めていた。</p>
久野	<p>事務局の扱いとしては、渉外に伝えてもらえれば対応できると思う。JOA の競技者登録番号や日本学連データベース上の変更も必要になるが、個別対応は可能だと思う。</p>
遠藤	<p>運用上は 1 年間所属校を変更しない方が楽だが、学籍と加盟登録のねじれを解消するという目的からすると、年度途中でも即座に登録変更を行うべきである。春・秋のインカレでそれぞれ別の所属で出場する場合を認めることも必要となる。</p> <p>対象となる絶対数はごく少数なので個別対応でも問題ないだろうか。</p>
佐藤	<p>年度途中での変更に関しては個別事例として扱い、年度変わりの時期に関する規約を基本のものとして作るのが良い。そういった特殊事例の当事者が参照した際に戸惑わないものを規約として作るのが良いだろう。</p>
山川 (登)	<p>年度途中での変更を認めるとすると、インカレでの選手権枠の配分の際にどの時期の所属地区学連を参照するかなども決めなければならず、それについての規則は現状存在しない。</p>
遠藤	<p>それについてはセレクション通過時の所属で考えれば良いだろう。セレクションとインカレはセットで考えるべき。</p>
佐藤	<p>規約の叩き台を作成した上で意見を募集し、次回幹事会で決定すれば良いだろう。</p>
遠藤	<p>現状の内容を整理する。</p> <p>加盟登録校と学籍は一致させる</p> <p>年度区切りでの加盟変更は新規登録で扱う。ただし、学連登録年数は継続</p> <p>年度途中での加盟変更はいくつか議論の余地がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・加盟登録費をどう収めるか</li> <li>・地区学連を移動した場合の対応</li> <li>・セレクションとインカレ本戦での所属地区が異なる可能性とその枠配分</li> <li>・学連役員（特に地区学連役員）の加盟変更</li> </ul> <p>以上を規約の元としたい。</p>
遠藤	<p>続いて、渡辺の 2 つ目の提案について考える。</p> <p>大学入学時以外で新規加盟登録を行った者の学部卒業後の加盟員資格について。</p> <p>現状として学部 2 年以降に競技を始めた学生は、学部を卒業した時点で加盟登録</p>



	が 4 年に満たないうちに加盟員資格を失う。飛び級などでも同様に年数が減る。逆に留年することで学部にて在籍し年数を増やせる。学部生や院生などを関係なく 4 年間とすれば良い、という議論は以前もあったが総会にて否決された。
久野	早大 OC に所属する東京理科大学の学生には 2 年からの加盟登録者が多い。というのも 1 年次に長万部キャンパスにて在籍する学部があるため。
渡辺	関東学連では、東京理科大からモチベーションに関わるので変えてほしい、との意見や、新歓期に大学院生が来た場合に門前払いしたことがあり、それに疑問を呈する声がある一方、大学院生の加盟に違和感があるとの声もあった。
遠藤	大学院生の加盟員資格を認めた場合に同名の大学と大学院を同一校として扱うかどうかとも考える必要がある。
渡辺	大学と大学院では所属をわけ、インカレでも別クラスを設けてはどうか。普及の観点からすると、院生新人や学部卒業後に引退してしまう選手を受け皿としてすくうことができる。競技者数を今より増やすことができるのではないかと。
遠藤	大学と大学院を分けて登録しているスポーツは確かにある。ただ、オリエンテーリングの場合は、大学院生がオフィシャル業務やインカレ運営・セレ運営を行っており、それを担う人材が不足する。6 年間の競技を前提とした場合に社会人になってから手伝える人が多くはないだろう。
佐藤	大学院まで含めて合計 4 年の縛りとすれば良いだろう。
遠藤	ここでこの場での意見を確認しておく。学連登録年数を 4 年間を上限として制限するので良いか。(→賛成多数)
山川 (克)	現状は大学生で 4 年間で越えても加盟登録は行える。選手権への出場ができないだけで一般クラスでの表彰対象にはなっている。
遠藤	学籍としての学年には特に意味がないので、学連登録年数のみに着目すれば良い。加盟登録上では登録年数を記載する。 単に院生を含めるという話になると 6 年目、7 年目の選手が参加できることになるので、4 年の上限があった方が公平だろう。同名の大学と大学院に関しては、厳密には別組織だが延長線上として同加盟校として扱いたい。
竹内	同名の大学院を別加盟校にするかはリレーにも大きく関わってくる。
佐藤	リレーのことを考えた際に、院を別加盟校と考えるか、学部と一緒に加盟校と考えるか、どちらの方が違和感がないか、というのは総会で意見を集約してみないとわからない。
遠藤	院進後に競技を継続したい理由は、学部時代の所属校に継続して貢献したいから、という人もいるだろう。大学院が別になるとそれができない。
森河	例えば京都大学卒業後、東京大学大学院に進学した場合はどうするか。大学院が大学と同所属となった場合、京都大学に所属していた選手が東京大学として走ることには違和感がある。また、4 年間を上限とした際に、4 年目に皆が院に進むわ

	けではなく、就職して学籍を失うものもある。それを考えると、現状のように大学院を含めずに大学 4 年までとしても良いかもしれない。								
遠藤	では、同名の大学と大学院は別加盟校としての登録の方向で進めることとしたい。								
藤本	現行案で進めると一般クラスに 6 年目の学生が出場できるが問題ないだろうか。インカレの選手権クラスの規則に 4 年間の上限がある状態であって、一般クラスの出場規則は存在せず、学連加盟員でさえあればインカレの一般クラスに出場できる、というのが現状。								
遠藤	4 年上限の話はインカレ選手権規則に記載があり、大学院を入れるかどうかの話は加盟員資格についての話であり、2 つの事項を並行して話していた。加盟員資格で 4 年目までの院生を認めれば、現行の選手権規則の下でインカレ選手権クラスに出場が可能となる。一般クラスに関しては加盟員資格さえあれば 4 年を越えても出場可能となってしまう。								
山川 (登)	選手権クラスと一般クラスの出場資格が異なるのは違和感が生じる。選手権規則に存在する 4 年上限を加盟員資格に移動するのはどうか。								
遠藤	加盟員資格に「初登録から 4 年以内」の条項を新設し、選手権規則の出場資格は「日本学連加盟員である者」とすればよいか。								
遠藤	現状を整理する。 <table border="0" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">現行の規則</th> <th style="text-align: left;">新規案</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ <u>加盟員資格</u>  <div style="margin-left: 20px;">大学生のみ</div> <div style="margin-left: 20px;">年数上限なし</div> </td> <td>大学院生も登録可能  <div style="margin-left: 20px;">但し、同名の大学と大学院は別加盟校</div> <div style="margin-left: 20px;">初登録から 4 年以内</div> </td> </tr> <tr> <td>・ <u>インカレ選手権クラス出場資格</u>  <div style="margin-left: 20px;">初登録から 4 年以内</div> </td> <td>加盟員であれば参加可能</td> </tr> <tr> <td>・ <u>インカレ一般クラス出場資格</u>  <div style="margin-left: 20px;">加盟員であれば参加可能</div> </td> <td>加盟員であれば参加可能</td> </tr> </tbody> </table>	現行の規則	新規案	・ <u>加盟員資格</u> <div style="margin-left: 20px;">大学生のみ</div> <div style="margin-left: 20px;">年数上限なし</div>	大学院生も登録可能 <div style="margin-left: 20px;">但し、同名の大学と大学院は別加盟校</div> <div style="margin-left: 20px;">初登録から 4 年以内</div>	・ <u>インカレ選手権クラス出場資格</u> <div style="margin-left: 20px;">初登録から 4 年以内</div>	加盟員であれば参加可能	・ <u>インカレ一般クラス出場資格</u> <div style="margin-left: 20px;">加盟員であれば参加可能</div>	加盟員であれば参加可能
現行の規則	新規案								
・ <u>加盟員資格</u> <div style="margin-left: 20px;">大学生のみ</div> <div style="margin-left: 20px;">年数上限なし</div>	大学院生も登録可能 <div style="margin-left: 20px;">但し、同名の大学と大学院は別加盟校</div> <div style="margin-left: 20px;">初登録から 4 年以内</div>								
・ <u>インカレ選手権クラス出場資格</u> <div style="margin-left: 20px;">初登録から 4 年以内</div>	加盟員であれば参加可能								
・ <u>インカレ一般クラス出場資格</u> <div style="margin-left: 20px;">加盟員であれば参加可能</div>	加盟員であれば参加可能								
西嶋	選手権規則にある年齢制限も加盟員資格に動かす必要がある。								
遠藤	【資料】木村理事の提案 4.1 項の上 2 点は加盟員資格にまとめ、3 点目を提案通り「当該年度 3 月 31 日現在 27 歳未満」として加盟員資格に追加したい。								
遠藤	以上の形で規約化する形で良いか。 今後の動きとしては、現状案でアンケートを実施し、受け入れられそうであれば今年度中に規約の文章化を行い、次回総会にて承認を目指す。来年のインカレでの適用は急すぎるので、この制度の施行は 2020 年度インカレからとしたい。								



## 5. 学連発足 35 周年記念について

## 要旨

学連発足 35 周年が間近に迫っており、内容を話し合った。記念事業として「全国キャンパス O ツアー」の開催及び「35 周年記念冊子」の発行を行うこととなった。

遠藤	<p>タイムリミットが近付いてきているので、早急に話を進めていく必要がある。善意で継続している組織なので、功労者に感謝の姿勢をすべきである。30 周年事業の際は何もしなかった。祝賀会をやるべきだったと言う反省があるが、過去の人を呼ぶのは現幹事会には難しく、理事会案件となるだろうか。</p> <p>今後の学連の活動に資する記念品などを作れたら良いだろう。</p> <p>瀬川氏から日本学連保有テレインの記念冊子を作成するという案を聞いた。</p> <p>35 周年は 2019 年の 12 月に迫っている、2018 年度中に動き出す必要がある</p> <p>個人的にやりたいこととしては、キャンパス O ツアー in ジャパンの構想がある。多方面の協力が必要であり、実行するのであれば今年度中に加盟校に根回しをする必要がある。</p>
山川 (克)	面白いアイデアだと思う。例年外部公開のスプリント練習会を開いている大学に協力を要請するだけでも十分に形になるだろう。
遠藤	キャンパス O は学生の特権と考えられ、学連主催としての理念に沿っているのではないか。
佐藤	学生 OB も、かつて通った大学でオリエンテーリングができれば楽しいのでは。現役以外のオリエンティアにも価値のあるイベントになりうる。
山川 (克)	冊子関係は予算をつけてくれれば YMOE 所属の弟子に委託することもできる。
遠藤	これまで学連がやってきたことを可視化するのは意義のある取り組みだが、全学連員に配布できる量を用意出来るだろうか。
山川 (克)	かつて学連加盟人数が多かったころは 1800 部刷って配布したこともある。黒字化も可能。JOA ニュースのように大量に印刷すればよいのではないか。
遠藤	大枠としては、キャンパス O ツアーをやって、冊子を作って、パーティーを開くということでよいか。
遠藤	冊子の内容を具体化したい。 瀬川氏が希望していた内容をもとに詰めていこうかと思う。意見をください。
山川 (克)	瀬川氏を編集委員長に任命するのはどうか。
遠藤	この場にて多人数で編集して内容が乱雑になるよりは、1 人が中心となってポリシーをもって編集する方が良いものになるだろう。瀬川氏はこの場にいないため、編集委員長に就任していただけるよう依頼することにする。

山 川 (克)	記念冊子の製作実行委員会を立ち上げるかどうかを今後の幹事会で決めるべき。 また、キャンパス O ツアー in ジャパンに関しても実行委員会が必要と思われる。
渡 辺	キャンパス O ツアーの実行委員長は遠藤さんが適任では。
遠 藤	話をまとめる。35 周年記念事業全体の実行委員会を大枠として立ち上げ、その傘下として記念冊子製作委員会・キャンパス O ツアー実行委員会・功労者表彰実行委員会を設置する。
渡 辺	冊子の内容に関して、各大学クラブの歴史を載せてほしい。今は途絶えてしまった大学も含めてほしい。
山 川 (克)	そのようなデータを集める際は、個人的にネット上で大学クラブの沿革などに関する情報をまとめている OB から協力者を募るとよいと思う。
遠 藤	ほかにはないか。できるだけ自由に考えてほしい。
久 野	大学クラブが著作権を所有しているテレインのリストはどうか。
佐 藤	インカレの歴史などはどうか。甲子園シーズンの特集記事のように、インカレの名シーンの記事があると読みごたえがあるだろう。または、学連関係の功労者のプロフィールなども良いだろう。
久 野	インカレの名勝負に関連して、当時の選手にインタビューできるとよいのでは。
山 川 (克)	電子版として DVD を作成するというのはどうか。冊子の分量が多くなった場合、電子版があれば検索などの際に便利になる。
佐 藤	近年の現役学生のオリエンテーリング事情に関する記事を掲載すると OB にとって面白いかもしれない。学生がストリートマップを作る動きなどが挙げられる。
山 川 (克)	最初に日光でインカレが開かれたのは 1984 年だが、当時の優勝タイムはキロ 10 ペースだった。現在はキロ 7 に達しており、インカレ選手権クラスの優勝ペースの変遷を載せると興味深いだろう。
遠 藤	パンチング機材の変遷はどうか。また、トリムの変遷なども興味深い。
渡 辺	地域クラブに広告を出してもらって、地域クラブ所属の OBOG にも記念冊子に触れてもらうのはどうか。微量ながら、広告料による収入も見込める。
遠 藤	35 周年記念事業に関して議論を進めることができたので、次回幹事会までに多方面の人々に連絡を取って話を進めておく。

## 6. アンチ・ドーピング啓発活動について

## 要旨

日本学連としてアンチ・ドーピング啓発活動をどのように行っていくかを確認した。

西嶋	<p>【資料 6-1】 アンチ・ドーピング活動の必要性</p> <p>【資料 6-2】 日本学連におけるアンチ・ドーピング活動の検討</p> <p>【資料 6-3】 アンチ・ドーピング事前参考資料</p> <p>資料を参照してください。前回幹事会で紹介したように、悪意あるドーピングを防ぐ以上に、市販薬などを原因とする無知によるドーピングを防止するということに重きを置いている。</p> <p>インカレでのアンチ・ドーピング活動の意義として、クリーンな組織としてのアピールを追加した。今の情勢ではアンチ・ドーピングのための活動を行っていることが、社会に対するクリーンな組織のアピールにつながる。</p> <p>今回の幹事会では、今後の具体的な活動案の難易度が適切かどうか、学連としてどのような体制で準備を進めていくべきか、以上 2 点を議論したい。</p>
アウトリーチ	JADA からアンチ・ドーピング啓発パネルを借りることができる。開会式やインカレ会場に展示する。
講習会	学連合宿や JOA 合宿では既にアンチ・ドーピングに関する講義が行われているようだが、加盟員の末端まで広げられるかは不明。
E-learning	選手権クラスの出場要件とすべきという提案がある。薬物禁止の要件が毎年改定されているので、毎回受けさせるか、初出場の際のみとするかを議論したい。受講には時間と手間がかかる。 他競技での活用例として、日本ボート協会では新人戦の際に E-learning を受けさせているようだ。
広告	全日本大会や一部の公認大会ではすでに広告が載せられているが、毎年変更があり逐次 JADA に申請が必要。JADA が申請数を数え、スポーツのクリーンさを判断している。今後は学生大会やインカレの広告にも掲載を依頼したい。
バナー	学連 HP にバナーを付ける。対外的に日本学連の活動をアピールできる。
Twitter	多くの学生が利用しているため、最も即効性が高い。日本学連のアカウントを使って、呼びかけを行うなど。

西嶋	また、日本学連の中にもアンチ・ドーピング対策委員会を設置し、担当理事や担当幹事を置くことで対外的なアピールにつながるのでは、という意見もある。
山 川 (克)	選手が主体的にアンチ・ドーピングに取り組めるような取り組みが望ましい。インカレのプログラムや学連の HP に過去の他競技での事例などを載せ、注意喚起を促せば自主的にドーピングについて学ぶことにつながるのでは。
遠藤	話をまとめる。今後は資料の優先順位の通りに準備を進め、学連内に担当幹事や対策実行委員会を設置すべきかについても検討するという方針で確定したい。
西嶋	JOA のアンチ・ドーピング担当者は現状 3 名で活動しているようだが、日本学連からも人を派遣してほしいという考えがあるようだ。
遠藤	学生加盟員と JOA のパイプ役として、学連から人を派遣するのはよいかもわからない。理事を派遣するのは昨今の人手不足を鑑みると難しいが、副幹事長が事実上兼任したり、対策委員会のトップを派遣するということはできるだろう。
山 川 (克)	医薬系の学部に所属する加盟員に対し、学連で交通費などを負担する代わりに JADA の講習会に出てもらえないか募るというプランもある。
遠藤	アンチ・ドーピング啓発活動を学連として恒常的に続けていくためにも、学連内で担当を明確にする必要がある。来年以降の担当をどうしていくかは次回幹事会までに西嶋に検討してもらいたい。

## 7. インストラクタ講習会について

<p>山 川 (克)</p>	<p>事業報告と会計報告を兼ねる。</p> <p>JOA が公益社団法人として文科省の傘下に入った際に、オリエンテーリング界での野外活動指導員に相当する人員の育成カリキュラムを作成するよう指摘され、JOA 主体でインストラクタ講習会が開催されるようになった。</p> <p>しかし、昨年度の総会や幹事会での議論により、最新の渉外事例などが反映されたインストラクタ講習会を行う需要が高いと判断し、坂野氏に講習会のコーディネーターと最新の渉外事例などを反映した冊子作製を依頼して 8 月に日本学連主体のインストラクタ講習会を開催する運びとなった。</p> <p>参加者は 27 名（うち一般参加者は 1 名）となり、各クラブの参加機会均等のために学生の交通費は全額負担した。参加者の交通費は 309016 円となった。必要な学連補填金は 565216 円となった。</p> <p>坂野氏が作成した冊子の報酬に関しても幹事会で議論したい。作成時間 50 時間程度に対して差し当たって時給 1000 円で評価しているが、冊子の内容と今後の学連としての運用を考慮すると報酬は再評価する必要があると考えている。信頼できる OB に冊子を見てもらったところ、「この冊子は 100 万円の価値がある」とまで評価してもらった。実際に 100 万円渡すのはどうかと思うが、坂野氏が望む時給 3000 円で評価してもよいのではないか。</p> <p>また話はそれるが、渉外ノウハウなど、今後自分が積み上げてきた渉外財産を文章化して行く作業が必要であり、それを進めるライターに報酬を出してほしいと考えている。インカレの継続的開催にもつながる重要な作業であり、これも含めて検討してほしい。</p>
<p>遠藤</p>	<p>大会開催マニュアルの位置づけが曖昧である。学連が今後公開していくのか。インストラクタ資格のための新たなカリキュラムの一環として JOA が保持するのか。</p>
<p>山 川 (克)</p>	<p>学連主体で保持してほしいと考えている。冊子は JOA のカリキュラムの一環として組み込み、学連が逐次渉外事例などの情報をアップデートして行くのが理想である。学生の代替わりを考慮し、今後も 2 年に 1 回程度は学連主催で学生向けのインストラクタ講習会を開催したい。</p> <p>今回の会計報告としては、坂野氏への報酬を 10 万円積み増しして正式な会計報告としたい。</p>
<p>遠藤</p>	<p>このマニュアル自体の内容は素晴らしく、今後の発展性も大いに高い。講習会の内容も参加者からの評価も高かったと聞いている。</p> <p>インストラクタ講習会の支出 65 万円についてこの場で承認をとりたい。</p>
	<p>全会一致(15)で承認された。</p>

## 8. セレクションでの日本代表選手の扱いについて(関東学連より提案)

## 要旨

国際大会の代表選手に対し、インカレの特別推薦枠を設けてはどうか、と関東学連より提案があり、各地区学連での現状を共有すると共に日本学連としての方向性を議論した。各地区学連に判断を委ね、日本学連としては特にガイドラインを作成しないことを決定した。

渡辺	関東では、毎年国際大会の開催時期とロングセレやスプリントセレの日程が重なってしまい、セレクションに出場しなかった代表選手が推薦を提出するという事態が常態化している。国際大会の代表選手に対し特別な推薦枠を設けるという案も出ていたが、日本代表に対しては地区学連枠を超えた特別推薦枠を用意するのが妥当なのではという話になった。また、WOC・WUOC 代表は各地区学連の中でも確実に学連枠での出場が可能であると見込まれる一方で、JWOC 代表は地区学連・年度ごとのレベル差によっては曖昧であるという私的点もあり、日本学連で方向性を示す必要があると考えた。
遠藤	代表選手に対して、今年度のインカレロングのように全日本 E 権での推薦枠のような枠を設けるという案は確かに妥当だと思われる。 関西では WOC・WUOC は無条件でセレ通過だが、JWOC はそうではない。学連ごとにルールが違うのは問題なのではないか。
山川 (克)	今年度は関東の現役学生の日本代表が多かったが、どのように議論したのか。
渡辺	WUOC と日程が重なっていたロングセレは中止となったが、中止になる前は、全日本 E 権を持っていなかった大橋選手と村田選手を推薦枠で通過させることになっていた。WUOC 代表は十分に実績があるというのが推薦の根拠となっていた。この件に関する関東学連の意見としては、実績実力ともに確実であると思われる WOC・WUOC 代表ではなく、毎年議論の対象になる JWOC 代表について、日本学連から統一した見解を示してほしいと考えている。
遠藤	選手権クラスの人数は過剰に増やさないというのがポリシーとして守られてきており、多少手間でも現行の枠の中で選考するのが望ましい。地区学連と年度の違いで実力水準が変動するものの、JWOC 代表を必ず通過させる必要があるかというところではないだろう。
佐藤	JWOC 代表を無条件でセレ通過させた場合、JWOC セレが実質インカレセレ化してしまうと予想される。
渡辺	関東では通常セレは 1 本制を採用しているため、一部の選手のみ実質 2 レース制になるのは問題である。
佐藤	若手育成枠的な意味で地区学連枠を超えた JWOC 特別出場枠を設けるのは多く



	の人が納得するかもしれないが、地区学連内で JWOC 代表が推薦枠を確保する場合は議論が紛糾するだろう。
遠藤	インカレのセレクションに関しては各地区学連に一任されてきた。日本学連の立場でできることはガイドラインの策定程度であり、地区学連に対してルールを強制することは難しい。
渡辺	WOC・WUOC 日本代表を地区学連を超えた枠で通過させた場合、代表選手を多く抱える学連が次年度の地域枠を多く獲得してしまうことが予想され、学連ごとの地域枠のバランスが崩れる危険性がある。そのため、地区学連を超えた枠を設けるなら JWOC 代表に限定するのがよいと考えている。 他学連での代表選手の扱いについて確認したい。
林	北東学連は特に何もしていない。
山下	北東学連と同じく、北信越学連は特別な扱いは何もしていない。北信越学連はセレ 2 本制を採用しているため、必要性が薄い。
遠藤	関西は先ほど述べたとおり、WOC・WUOC 代表は無条件でセレ通過させるが JWOC 代表はセレ通過させない。
南雲	東海学連には特別措置という制度が存在し、セレに出られなかった JWOC 代表がいた場合、諮問委員に委託して通過させるべきかどうかを判断している。通常の推薦枠とは独立に選考している。
渡辺	特別措置の対象は JWOC 代表のみか。
南雲	その通り。ほかの湯力選手がセレを欠席した場合は、通常の推薦枠で選考する。
遠藤	話をまとめる。地区学連の中で、JWOC 代表に特別待遇をとっているのは東海学連のみということが分かった。
渡辺	北東学連は北東インカレの時期的に、JWOC 代表について検討する必要性がないのでは。
南雲	東海学連は例年女子選手の選手層が薄く、JWOC 代表であれば東海女子の中で十分に通過相当であると判断できる。
遠藤	地区学連ごとにセレの時期も異なり、JWOC 代表の位置づけも異なるので、日本学連が統一基準を示すのは困難ではないか。手間はかかるが、従来通り地区学連単位で毎年話し合うのが最も適切ではないかと考える。 それでは多数決をとりたい。日本学連として代表選手の選考に関するガイドラインを作成すべきかどうか。
	多数決の結果、反対意見が多数となった。



## 9. オリエンテーリング部を名乗る団体について

遠藤	<p>【資料 9-1】“オリエンテーリング部”を名乗る団体について</p> <p>たまに話題になることがあるが、該当する団体について再度確認しておく。かつてはオリエンテーリングを行っていたものの、いつの間にかレククリエーションサークルとなっている団体が存在する。活動内容に直接口をはさむことはできないが、オリエンテーリング部の名称を用いている以上看過できないと考える加盟員も少なくない。個人的には、当該団体に対して名称変更を迫る正当な論理的根拠に乏しいと考えるため、今後の方針を立てるのが困難であると考えている。</p> <p>木村理事が以前メーリスで提案してくださったように、当該団体に対して日本学連への加盟を持ちかけ、向こうが断った場合何らかの対応を行うという案も考えられる。（【資料 9-2】日本学連の正当性について）</p>
山川 (克)	日本学連は日体協に加盟する JOA 傘下の団体であり、オリエンテーリングにきちんと取り組んでいる団体という意味においては優位に立てるだろう。
遠藤	<p>富山大学オリエンテーリング部は大学の公認団体であるため、学連への加盟を勧め断れば名称変更を迫ってもよいかもしれない。</p> <p>事務局が学連の連絡窓口として機能しているため、事務局に連絡をお願いしたい。</p>
久野	対象となる団体は熊本学園大学と富山大学の 2 団体で正しいか。
遠藤	<p>その通り。</p> <p>話がそれるが、この 2 校では当該団体の存在によりオリエンテーリングというスポーツが誤解されている可能性がある。</p> <p>連絡先が見つからなかった場合、大学当局に問い合わせしてみるのも一手だろう。</p>
久野	日本学連のメールアドレスからでよいのか。
遠藤	よい。

## 10. 後援大会申請

久野	<p>後援大会申請は第 1 回広島大学岡山大学大会と第 38 回筑波大大会、第 41 回東大 OLK 大会からきている。</p> <p>ともに提出期限は守られている。</p>
遠藤	第 1 回広島大学岡山大学大会の後援に関して承認をとる。
	全会一致(15)で承認された。
遠藤	続いて、第 38 回筑波大大会の後援に関して承認をとる。
	全会一致(15)で承認された。
遠藤	第 41 回東大 OLK 大会の後援に関して承認をとる。
	全会一致(15)で承認された。
山川 (克)	茨城大学大会の後援申請書類が遅れているので、早急に提出させる。メーリスで書類を公開し、承認になると思うが、幹事は確認をお願いしたい。

## 11. 技術委員会報告

遠藤	本日欠席している大西理事より提案があった。来年 4 月の日光霧降での全日本大会での使用エリアは、2005 年の全日本大会の際に完成した日本学連の所有エリアに重なっているかどうかを確認したい。
山川 (克)	基本的には重なっている。今大会で新たに Omap 化するエリアも含めて、大会後は日本学連の所有にしてもらいたいと考えている。
遠藤	大西氏によると、2005 年の全日本の際に二つの提案がなされたと聞いている。学連が著作権維持するのは前提で、一つ目が地図調査費を負担する代わりに地図代を参加者 1 人当たり 1000 円請求するパターン、二つ目が地図調査費を負担しない代わりに地図代を請求しないパターン。今回はどのように学連に関わるべきか。
山川 (克)	前回大会とは幾分事情が異なっている。自分が大会プロデューサーを務めた矢板日新と椈の湖の全日本は大赤字になってしまったが、今回は自分がスポンサーになると言っておいて JOA から開催許可を得た。まだ公開していないが、今大会はとある企業と大型のスポンサー契約を結ぶ見込みであるため、今大会の会計内で調査費を工面できる。そのため今大会では日本学連に地図調査費を請求しないものの、今後霧降を使った大きな大会が開かれた際には日本学連を通して調査費用を回収したい。今大会では地図代のやり取りはせずに、著作権は日本学連に残す。
遠藤	話をまとめる。今回の全日本大会では日本学連が金銭的な負担をすることなく、拡大された霧降の著作権を獲得できる、ということである。 山川氏からの全日本大会に関する地図代と調査費に関して承認をとる。
	全会一致(15)で承認された。
遠藤	もう一つ大西さんから連絡を受けている。霧降の OCAD データはどこに保管されているのか。
山川 (克)	オデッセイに共有しているので、理事も確認できる状態になっている。

## 12.各部局活動報告

遠藤	今後、全日本ミドル前後で齋藤翔太理事と山川さんと西嶋と自分の 4 人で、6 月幹事会で議題になった地図規約の修正を行う。
西嶋	9 月 24 日に落合氏とアンチ・ドーピングに関して話し合いの場を持った。今後も継続的に話し合いを行う予定。 また、広報から、日本学連の渉外 ML の管理者権限を引き継いだ。
竹内	【会計】会計としては、各種振り込みの確認を行った。
山川 (登)	【広報部】新歓フライヤーに関する記事やスキーO 関連について HP で公開した。 9 月 15 日に開催された総会の議事録はまもなく公開する見込みである。
上野	【公認大会】公認大会に関する議論をメーリスにて行っている。
丸山	【インカレ】インカレに関してはメーリスでの議論が滞留している。
遠藤	建設的な議論を進めるため、今後のインカレ運営にかかわる人もメーリスに招待すべきである。逐次招待していく。
久野	【事務局】先ほど公認申請が承認されたため、承認票を各大会の実行委員会に送る。データベースを追加したら自分まで連絡してほしい。 日本学連 HP の地図利用ページが更新されていないため、地域クラブの人からの申請がめちゃくちゃになっていることが多い。
森河	【事業部】後夜祭と講習会の準場をそろそろ開始する。
臼井	【普及部】インカレ観戦ガイドを作成、公開した。
佐藤	【会計監査】諸々の会計を監査している。また、活動報告書の作成にまだ取り掛かっていないので、そろそろ開始したい。
遠藤	2017 年度第 4 回の幹事会と第 2 回の総会の議事録が出ていないので、なるべく早く公開してほしい。

## 13. 地区学連活動報告

林	<p>【北東学連】9月15日の総会に欠席してしまったので、報告できなかったことを補完する。</p> <p>北東学連は6月2日の東大大会にて1回目のロングセレ及び第1回総会を行った。7月28日に臨時総会を行い、ロングセレが中止になったときの選手選考について協議した。また、その際の内容を北東学連規約に追加する運びとなった。</p> <p>8月11~12日の北東インカレにてスプリントセレ及び2回目のロングセレを行った。同月13~14日に北東の共同合宿を行った。9月15日に第2回総会を行った。今後は9月30日に第3回総会、12月9日にミドルセレ及び第4回総会を行う。</p>
渡辺	<p>【関東学連】前回総会で報告したことから変更はない。</p>
山下	<p>【北信越学連】9月22日、23日に新潟大学主催で交流会を行い、9月23日に総会を行ってミドルセレに関して話し合った。しかし、結論が出なかったため、今秋電話会議にて再度話し合いの場を持つ。</p>
南雲	<p>【東海学連】前回総会の際に報告したことから変更はない。今年度中に会計規約の作成を作りたい。</p>
藤本	<p>【関西学連】関東と同じく、前回総会で報告したことから変更はない。</p>
遠藤	<p>【中九四学連】今回下江が欠席しているので代わりに発表する。</p> <p>中九四学連の活動は、9月15日の総会で報告したことから変更はない。</p> <p>また、今回の幹事会では取り扱わないが、中九四学連の人数が少なく、今後関西学連と吸収合併を検討しているとのこと。(【資料12】学連枠格差是正について)</p>

## 14. 次回幹事会について

遠藤	<p>次の幹事会は1月5日、茨城大学大会の前日に行う。</p> <p>事業部長は宿と幹事会の場所の準備をお願いします。</p> <p>また、次回幹事会には来年度の後任を連れてきてください。</p>
----	--